

# 令和2年度第2回佐賀県博物館及び美術館協議会(令和3年2月17日開催)における主な意見と対応状況

佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

意見等(●)	事務局説明	その後の対応等
<b>I 令和2年度の事業実施状況について / II 令和3年度の事業計画について</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校の団体利用状況は、市町によって随分と開きがある。小城市は近いのに8校中0、神崎市も9校あるのに来てない。一方で、鳥栖市とか、かなり高い割合で来ている。子供の頃に博物館とか美術館に来ると、その印象が結構残ると思う。将来にも結びつくような気がするが、市町によって小学校のこの団体利用の状況が違う要因は何か考えられるか。</li> <li>● 小城市の場合も神崎市と同様か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 小学校の来館者については、非常に偏りがあるのは御指摘のとおり。平成26～7年頃から、郷土を誇りに思う教育の一環で、学校に団体利用の促進を働きかけてきたので、以前から比べれば、学校利用の頻度は高まっている。 ただ、近場でも来ないところがある。神崎には吉野ヶ里歴史公園などがあるので、そちらのほうに行くことが多くなる。地元の施設が優先されやすいというのが現状。 博物館・美術館への誘いとしてミュージアム・キャラバン隊などの事業も実施している。長い目で利用頻度を上げている状況を見ていただきたい。</li> <li>➤ 小城市にも桜城館など地域の博物館がある。各市町教育委員会の取組によって、地元の施設を使ったり、当館を利用していただいたりと傾向に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コロナ禍の中でも、小学校の団体利用については、それほど前年度とほぼ同様の水準となっている。 団体利用については、子どもたちの「ミュージアム・デビュー」ともいえるので、丁寧な対応に心がけている。 小学校3・4年の社会科に「昔の道具、昔のくらし」という単元があり、本物を見せるという意味で、博物館の民俗展示(大展示室)を活用いただいております。パンフレット・展示説明等さらに充実させたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以前、博物館に来てもらうためのバスチャーター費などを援助したらどうかという意見があったと記憶しているが、その点で進展はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 3年前の肥前さが幕末維新博の時は、各学校、移動用のバス費が予算化されていたが、それは会期中だけだった。現状として、そういった予算を組んではいない。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ポケット学芸員」というアプリが使えるようになっていたが、10点余りのわずかな資料しか見られなかった。アプリが使える案内等が館内に設置してよいのではないか。ポケット学芸員の音声案内機能について、高校の放送部員に協力依頼するなど今後御検討されたいかがか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ポケット学芸員は、昨年10月から試験的にアップしている。運営方針を定めていないので、試験運用しながら改善したいと思っている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和3年度の展覧会案に古川吉重の展覧会が開催されるということで、非常にうれしく思っている。古川さんの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 古川吉重さん、池田龍雄さんは、佐賀に生まれ、佐賀を離れ、様々な場所で活躍した作家。この2名以降、佐賀出身あるいは佐賀</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 令和3年11月27日～12月19日の会期で「Artist File #1 古川吉重」を</li> </ul>

<p>作品は抽象絵画だが、このようなすごい作家が佐賀から出たということ、県民に知ってもらいたい機会かなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催中のコレクション展「佐賀・美の道」に池田龍雄が取上げられている。池田龍雄は、私が若い頃、美術手帖なんかでよく見た作家で、その後の作家たちに大きな影響を与えた。前衛的な手法で作品を制作する、近年の画風における先駆者だったというふうに思う。もし、池田龍雄を今後も展示してもらえる機会があれば、学芸員の方も非常に解説のしがいのある作品だと思うし、教育効果も高い。今回は特集展示という紹介だったが、できれば近い将来、ぜひ美術館で大きな展覧会を開催してほしい。すでに山梨県立美術館や隣県の福岡でもやっている。福岡県で開催されたときには、ちょっと悔しいと感じたこともあるので、いつかぜひやってほしい。</li> </ul>	<p>ゆかりの様々な作家が誕生している。</p> <p>佐賀の美術は、非常に多彩な人材を生み出しているという点に特徴があるといえる。後程御案内するコレクション展で詳しく紹介したい。</p> <p>今後は、今までよりも積極的に個々の作家を紹介できればと思っている。年間に1人、アーティストを紹介する「Artist File」といった企画を展開できればと思う。絵画技術は、これまでも、今も、絶えず進化を続けている。その様を見詰めるのも私たち美術館の役割と思っていますので、そういう想いを反映できるような展覧会ができればいいなというふうに思っている。</p>	<p>開催する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 刀剣の展覧会が来年度あると説明されていたが、刀剣は今、全国的にブームで、入場者も増えるだろうと思う。以前、赤羽刀を受け入れたと思うが、その活用についての現状を教えてください。</li> <li>● 「赤羽刀」という言葉に耳慣れない方も多いと思うので、改めて簡単に説明をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 赤羽刀を114振り受け入れている。ほぼ全ての修理を終えて、2004年度特別展「よみがえる肥前刀」にてお披露目をしたところである。当館は寄託も含めて約300振りの刀剣を保有しているが、約3分の1が赤羽刀。</li> <li>現在、常設展で3～5振りほど刀を展示しており、ほぼ必ず赤羽刀を1振り以上展示している。また、本年度6月に開催したコレクション展「肥前刀のいろは」では、約半分が赤羽刀だった。来年度開催予定の刀剣展でも、赤羽刀は展示予定。</li> <li>➤ 赤羽刀の正式名称は「GHQ接收刀剣類」で、戦後、GHQが全国の刀を没収したもの。東京都北区赤羽にて保管されていたので、通称「赤羽刀」と呼ばれている。その数は非常に膨大だったが、20世紀の終わり頃に、刀を返還する機運が高まり、そのとき、持ち主がわかっているものについては個人に返却されたが、大半が所有者不明の状態だったので、刀が生産された地域の博物館に寄贈される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 令和3年度は、刀剣関係の展示として、テーマ展「悠久の佐賀刀剣史」（会期：令和3年4月24日～6月13日）を開催し、コレクション展「忠吉」から「忠広」へー集結！初代忠吉ー」（令和4年2月1日～3月6日）を開催することとしている。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 赤羽刀や、先ほど意見のあった池田龍雄さんなど、あまり目に触れない、忘れられがちなお宝がたくさんあるので、博物館・美術館においても、今発掘できるものはどんどん掘り下げていただきたい。</li> </ul>	<p>ということになった。それで当館には、肥前刀を114振りも受け入れることになった。これは全国的にみても特に多い受入数。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来年度特別展「白馬、翔びたつ」の開催を非常に楽しみにしている。黒田清輝の作品は何点ほど展示される予定か。</li> </ul>	<p>➤ 本展覧会は国立博物館収蔵品対応促進事業に採択されており、まず東京国立博物館所蔵の油絵及びデッサンが約25点出品される。また、全国の美術館からも名品をお借りするので、合計で30～40点ほどになる予定。なお、岡田が設立し、近代日本洋画界を支えていくことになる「白馬会」の作家たちの作品も一部含む。</p>	<p>➤ 令和3年9月7日～10月17日の会期で特別展「白馬、翔びたつ—黒田清輝と岡田三郎助—」を開催している。</p> <p>110点の展示作品・資料中、黒田作品は、東京国立博物館所蔵作品22点を含む35点。黒田清輝《舞妓》は重要文化財。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 去年、博物館が50周年を迎えたということで、特別展がつくられた。やがて、建物の耐久年数などを考える時期がやってくるのかなと思っているが、今後、どのような計画をお考えか。ざっくりあと50年は博物館の方でも大丈夫だろうと見込んでいるのか、それとも20年後くらいには建替え検討する必要があるのかなど、長期的な計画や見通しは現状あるか。</li> </ul>	<p><b>【文化課長回答】</b></p> <p>➤ 現在、県立の博物館施設が6つある。計画的に改修を進めたいと思っているが、現状としては、空調など個々の設備を対症療法的に改修・施工しているところが実態。</p> <p>来年度予算だと、九州陶磁文化館の常設展示室の一部をリニューアルをするということで、今計画をしているところ。このように、全体を見渡しながらか、優先順位をつけているといったところが実態。博物館に関して言えば、御指摘のとおりで築50年経っており、図書館も含めて今後の在り方を考える議論を進めていたところだが、やはり大規模改修をするためにはタイミング等を見計らう必要があると思っている。</p> <p>端的に今の状況で、設備的には大丈夫といえる状態ではないと認識している。また、耐震化の問題も含めて老朽化の課題を持つてる施設がほかにもあるという状況。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間パスポート的なものはないか。</li> </ul>	<p>➤ 当館は、常設展に関しては観覧料無料。有料の施設で年間パス制度を持っている場所でいけば、吉野ヶ里歴史公園などがある。県</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先日開催されていた田中達也さんの展覧会のときには、駐車場が常に満車状態になり、館内もかなり混みあっていたので、固定客をより定着させる手立てがないかと思ひ、確認した。</li> </ul>	<p>立の博物館施設が今のところ県内どこも無料なので、そういった面ではほとんど年間パスと同じような効果が得られてるかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 年間パスポートとはちょっと視点が違うかと思うが、博・美メール会員という制度がある。メールアドレスを登録していただき、当館の行事等の情報を随時配信している。この博・美メール会員に登録していただくと、当館の有料展はもちろん、外部の展覧会にも協力依頼をして、入館料を100円、200円と割引することができる。そういった意味では、年間パスポートとは異なるが、固定客獲得を推進する取組をやっている。</li> <li>➤ 駐車場利用に関しては、美術館北側駐車場・博物館東側駐車場だけでなく、佐賀城本丸歴史館前の駐車場についても、博物館前の駐車場が満車の場合はそちらに停車していただくことも可能。逆に、佐賀城本丸歴史館の展覧会で入館者が増えた際は、博物館・美術館前の駐車場を使用することができる。それでも満車になってしまった場合は、おそらく佐賀神社駐車場などの有料駐車場を御案内することになるが、土日については、サガテレビ北側の県職員駐車場を無料で利用できる。</li> </ul>	
--	---	--

### Ⅲ その他（正月臨時開館に関する御意見聴取）

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成29年、30年を見ると、入館者は100に満たないときもあれば、多くて300～400とある。数字のばらつきを見ていると、入館者数は、企画の内容次第で大きく変わる。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 逆に、平成7年もしくは17年から臨時開館を行ってるといのは、その頃から臨時開館することになった結果・理由はこういったものだったのか。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 平成17年といえば、平成5年に名護屋城博物館が開館し、既に博物館、九州陶磁文化館、美術館は開館済み。佐賀城本丸歴史館が開館したのが平成16年なので、県の幹部から、県民が帰省で地元に戻ってきたときに、良いものを見せてあげられないかというのが経緯だったと思う。ただ、当館の場合は、それ以前でも、いろんな新聞社の企画とか、テレビ局の企画とか、外部団体の企画展を開催しているときに開館することもあった。</li> </ul> <p>平成17年というのは、佐賀城本丸歴史館が平成16年8月に開館して、佐賀城本丸歴史館は年末3日間は休みで、年始は開館した経緯がある。</p>	

正月開館するためには、職員はもちろん、委託業者の方々も含めて様々な方が動員されているという状況。

- ここから先はもう個人的な意見でしかないのだが、ゆめタウンだってもう3日間を休んだほうがいいぐらい、世の中ちょっと、正月開館はやめたほうがいいと思っている。また、スタッフの方々も、2日3日を開けるのと、ついでに元日も開けるのでは全然意味が違う。本当に来なければ来れる前後のタイミングあるはず。別に行政に限らず、もちろん行政だから云々って言われる方もいらっしゃるかもしれないが、やっぱり休むべきときは休むべきだと私は思う。

三が日はどうしても開館しないとけない必要があるかは、私も懐疑的で、4日からの開館にしてもいいんじゃないかと個人的に思っている。そのかわり、メリハリをつけて4日から頑張っていたらいいと思う。

気になったのは、なぜ2日3日や元旦があくようになったのか、県幹部や知事の気まぐれがあるんじゃないかと脳裏をよぎったから聞いた。まず、ぶっちゃけ職員の皆さん方の負担とか心情かどうなのかなってというのが気になる。ちょっとこの場では、多分答弁しにくいと思うので、協議していただければと思う。もう1回その3日間あけることの意義は、よく考えたほうがいいかなと思う。

#### 【文化課長回答】

➤ 平成7年の時は井本知事時代だったけれども、知事は「文化は振興せんばいかんもん」とよくおっしゃっていて、その文脈の中で、たとえば高校生以下の常設展の入館料を無料にするという取組もあった。そして、後を追いかけるようにして常設展を大人も含めて全て無料にするという流れがあって、その中に正月開館もあったと思う。

平成17年は古川知事のときで、図書館も夜間に来られるように、開館時間を延長し休館日を減らすなど公共サービスの時間を十分にとるといふ動きがあった。公共サービス向上の機運の中に、博物館も入ってきたと思う。

たしか本丸歴史館のように、正月の行事と密接につながるイメージを持てる場所は、開館したほうが来館者も増えるということもある。現実には、正月1日はやはり少ないが、2日3日でかなり多いという状況もある。

他方、九州陶磁文化館の事例だと、それこそ10人ぐらいとか、0に近いぐらいとかという話も聞くこともある。でも、九州陶磁文化館の方に正月来られる方は、寄贈者の親戚だったりすることもあるらしい。

県立施設は6館あるが、それぞれ立地も機能も異なるので、統一的な臨時開館及び閉館が難しくなっているのではないかと思っている。

委員御指摘のとおり、働くスタッフの問題というのもしっかりと切実だと思っているが、それを主たる理由にしてしまうのは、県民からシンパシーを得られにくいとかつては思っていたが、やはり働き方改革が人口に膾炙してきたのかなと思う。

年末年始の開館・閉館については、館の権限ではあるので、私どもとしては、現場がどのように判断し、それが来館者の利益にもつながるといふことを確認できれば、正月は閉館する動きに踏み込めるのかなと思っている。多様な御意見をいただきながら、判断する必要があるのではないかなと思う。

【委員長の質問により多久市の事例を紹介】

- 当館は、条例で12月25日から1月5日までの休館が決まっているので、その期間きっちり休んでいる。実際、開けてほしいという要望はそれほど無い。たまにないこともないが、やはり皆さんお正月は御家族で過ごされるということもあるし、当館はスタッフが3人しかいないので、ふだん休みの日に職員が出勤すると、平日の開館にしわ寄せが出てしまう。

先ほどから話を伺っていると、平成17年と現在では、だいぶ状況は変わってきていると思う。今、郷土の魅力を発見したいのであれば、インターネットによって24時間365日アクセスできる状況。その情報に触れて、実際博物館に行こうかとなったところで、それは正月三が日でなくてもいいのではないかなというふうを感じる。

当時は正月臨時開館に意義があったのかもしれないが、今ここに来てその正月を開館しなければならないという意義はちょっと薄れているのではないかと、個人的には思う。

- ここには臨時開館としてあるので、臨時のままで良いと思う。つまり、例えばその年の初めにやることに意義がある企画を実施するのであれば、1日から開館してもよいということ。ただし、県民は1日から開館していることを知らない人が結構多いと思う。だからそういった企画の場合には、きちんと広報するという形にするのがよいと思う。そうでなければ、もう3日間は休んでもらってもいいのかなと思う。「去年は1日から開館していたけど今年は開館していなかった」といった文句を言う人はいないと思う。

- 報道機関にいたので、元日だろうと誰かが出社しているので、正月出社自体にそれほど抵抗感というのはないけど、お話しもあつたように、10何年とか20何年、正月開けてきたってということは、本当に皆さんの努力に敬意を表するところ。もう十分に役割を果たされてきたんじゃないかなというふうにする。

正月だからこそ見てもらいたい今見てもらいたいというようなものがあれば、臨時に開けるっていうのは大いに結構だと思うし、そういうものっていうのはやっぱり多分需要もあって、元日とか2日に見にこられると思う。最初から必ず開けないといけないというふうに決める必要はないんじゃないかと個人的に思う。

それよりも、来館者の利便性を考えれば、仕事が終わった後に見に行きたいという人のために、夜間の閉館時間を後ろ倒しにする、あるいは通常の開館日を増やすといった対応も含めて検討していただければよいのではないかな。